

15 農村の生計分析

— 5ヶ年間の家計の推移 —

広島女子短大 鹿股寿美江

1 農村の家計構造がもつ問題点を明らかにする意味において、継続5か年間の家計の推移を考察することを目的とした。

2 広島県安佐郡安佐町大字飯室（旧飯室村）の農家を対象とした。抽出は、飯室全地区から行った。対象地選定理由は、旧飯室村の農業振興5か年計画が家計構造にいかにならわれてくるかを見るためと、山村の入口にある農村の家計構造考察の意味からこの地を選定した。調査期間は昭和29, 30, 31, 32, 33年の5か年間である。階層区分は、現地の実状に則し、5反未満、5反～8反、8反以上の三区分とし、各々純農、兼業農別に考察した。

3 5反未満の階層は、純農においては、収入が、昭和29年度を基準100とすると、169, 118, 123, 136の動きを示し、支出は、211, 149, 151, 207の指数を示している。総体的には支出指数が収入指数より高く生活困難の状態にある。副食費と教育費が100を下まわり収支在衡において5か年連続赤字である。兼業農においては家計支出内容において副食、被服費が高い指数を示している。教育費は純農と同じく100を下まわっている。5反～8反の階層は省略。8反以上の階層においては、純農においても収支のバランスがとれている。収入は69, 84, 96, 85の指数を示し、農業収入がのびていないが、支出も、121, 86, 105, 106の動きを示し、住居費、雑費は低位にむかい、教育費が上昇的で、生活の安定が見出される。